

山下商店、ニューギロ導入

省力化、処理能力20%向上

大分県で金属スクラップや自動車リサイクルなどを手掛ける山下商店（本社＝速見郡日出町、山下唱徳社長）はこのほど、本社ヤードにモリタ環境テック製のニューギロを導入した。切断能力を高めた特別仕様で九州での導入は初めて。加工能力を向上させるとともに省力化が図られることから社員の負担軽減も期待する。

今回導入したニューギロは「特」1000型。切断能力を高める特別仕様としている。



導入したニューギロ

る。設備の導入により処理能力は20%向上すると見込み、処理加工量を引き上げるとともに品質の向上にもつなげたい考え。

最新鋭機の導入で社員のモチベーション向上のほか、省力化による負担軽減も期待。「今の時代に合わせ、若手の採用にもつなげた」（山下社長）。また、

今期（23年10月期）には福利厚生の拡充を目指して、休憩室を備えた新たな事務所棟の建設も視野に入れる。

同社は1945年創業で04年に設立。本社ヤードのほか、町内に3拠点を展開し、鉄・非鉄スクラップのほか、自動車リサイクルや産業廃棄物の収集運搬、中間処理を手掛ける。

従業員数は約20人で前期（22年10月期）から月に一度、社員勉強会を開催し、人材育成も強化。経営指針の一つに「全員経営」を掲げ、現場オペレーターも経営指標の読み方を学ぶなど社員一人一人が主体となり目的達成のための行動を起こす「ティール組織」の実現を進めている。

データの見える化にも取り組むほか、ビジネス用SNS「ラインワークス」やクラウドサービス「Kinto」ne（キントーン）を活用してDX化を推進。今後は、より一層5S活動による環境整備を進め、働きやすい作業環境の実現に力を注いでいく。